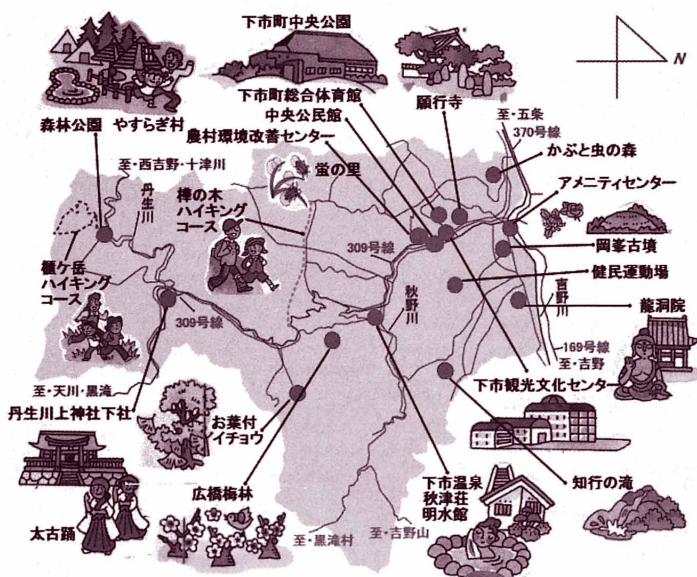


### 町の紹介

「山家なれど下市は都 大阪商人の津でござる」と歌われるように中吉野、奥吉野地方の玄関口にたち下市町は、古くから交易の要衝として「市」が立ち下市の地名も吉野川上流の上市（吉野町）に対して下流に立った市に由来し、その交易の活発であった様は「下市札」とよばれる日本最初の商業手形が発行されたことにもうかがえます。さらに吉野林業地帯を後ろにひかえることもあって、林業の他、割箸や三宝、神具など木工製品の製造も古くから盛んで吉野地方の西部を代表する商工業の町です。

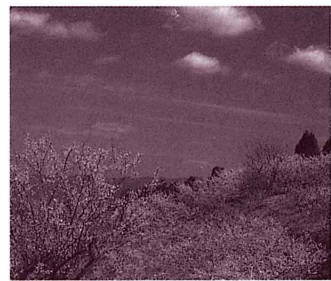
また下市町は、江戸中期に義経を扱った歌舞伎、浄瑠璃の中でも傑作と言われる「義経千本桜・鮎屋の段」の舞台になっており、今も往時を偲ぶ「釣瓶鮎屋」があり、歌舞伎役者や舞台関係者が講演の前に訪れます。



### 各名所

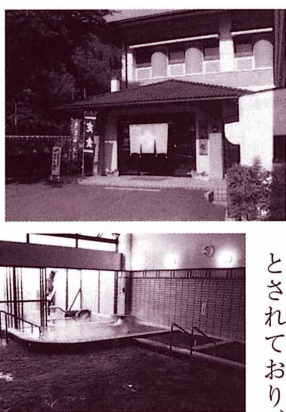
#### ● 広橋梅林

県下三大梅林の一つである広橋梅林は、大和平易野を見渡せる素晴らしい展望が魅力です。春先2月末から3月中旬には、付近一帯が色づき梅の香に包まれますが、梅の花が終わっても四季折々の多彩な植物が楽しめることから、地域と行政が一体となって遊歩道や休憩所が整備されました。ここでは梅林を囲むように里山の風景が広がっており、また高野槇の群生を見ることが出来ます。



#### ● 秋津荘・明水館

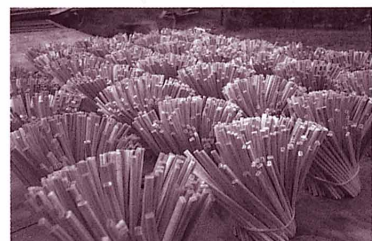
古くは桃花の里と呼ばれ、夏にはホタルが飛び交う下市秋津清流秋野川のほとりにたたく山あいの静かないで湯……。泉温は15・8度の冷泉で、泉質は良質な炭酸水素塩泉、リウマチ疾患、神経痛、胃腸病、肩のこり、婦人病、けがの治療に効用があるとしており、天然温泉のあるふれる湯量とやさしい湯の香が、ゆつたりと心を癒してくれます。



#### ● 箸

南北朝の昔、後醍醐天皇が吉野の皇居にあらせられたとき、下市の里人が杉箸を献上したところ、その美しい芳香を喜ばれて朝夕ご愛用されたので、公卿、僧侶にも使用されるようになり、次第に伝えら

れて今日に至っています。植林された吉野杉の原木を、建築製品等製材した後に残る外側の利用度の少ない部分だけを利用して、一本一本巧みに加工し、吉野杉の美しさを損なうことなく作られ、明治維新後国勢の伸展に伴い、需要が激増して家内工業として大きな発展を遂げ「箸の町」と呼ばれるようになりました。



#### ● かぶと虫の森

自然の状態でかぶと虫が観察できる「かぶと虫の森」が毎年7月〜8月上旬に開園し、町内外から大勢の家族連れが訪れます。雑木材をネットで覆い、常時200匹のかぶと虫を放し飼いにし、クヌギから樹液を吸う様子なども観察でき子供達の学習の場としても活用されています。



施設内には、世界一大きな「ヘラクレスオオカブト」体が白っぽい「グラントシロカブト」などを飼育した展示コーナー、飼育用品の販売も行っています。

#### ● やすらぎ村

渓谷美と森林に囲まれ、自然と共存する素朴さが自慢の森林公園「やすらぎ村」。澄んだ空気、山あいの豊かな緑と穏やかな丹生川で、釣り、川遊びキャンプなどのアウトドアが満喫できます。

家族、仲間、また子供達が楽しみながら体験できる学習の場として活用されています。